

旭山～大雪連峰と 旭川の接点

ぷくぷく

発行元 (有) 北海道新聞 下村販売所

旭川市東旭川北1条5丁目9番8号

ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>

お問い合わせ・お申込みは... フリーダイヤル ☎ 0120-233746



shimomura

旭山シリーズ 77

H27.10. 3

今年出会った不可思議な姿・・・ 解らない事ばかりです

その魅力と癒しの空間、歴史を探る シリーズ 77

動植物達は生きるために、長い年月をかけて自分達のスタイルを作り上げ、その遺伝の法則に従って親から子へ伝えていていると思うのです。しかし、その年その場所によって衣装を変え、驚くような姿で現れる事が間々あります。見た目で判断する事が多い私達の世界と比べると、動植物達は「中身」で勝負しているのでしょうか。終生変わらぬ生き方を、何処から生み出しているのか、人間が学ばなければならないのかもしれない。



コウライテンナンショウ (高麗天南星=サトイモ科)

秋の散策路を歩いていると、独特の赤色が鮮やかに映ります。でも2枚の写真を見比べて下さい。どうでしょうこの違い・・・？暗褐色の布にゴミが付いた様な目立たない配色、葉や茎は間違いなくマムシグサです。おそらく周辺事態の変化(政治の世界ではもめています)を微妙に感じ取り、どこかで操作をしているのだと思います。図鑑等によるとトウモロコシ状の実を沢山つけて生きているとの事ですが、雌雄が入替わることもあるようです。マムシグサは分類が大変難しく、学者の方々も苦勞をしている様です。何とこの植物、こんにやくの仲間だそうです。

アキノキリンソウ
(秋麒麟草=キク科)

秋を彩る山野草の中で、この頃一番多く見られる花です。日当たりの良い所で生を受けた種は、分枝した枝先まで花を付けこれ見よがしに堂々としていますが、日陰の種もそこそこに花を付け懸命に命を繋いでいます。でも自然の神様は不可思議な手を加えるのです。1枚のこの映像を見てください、誰もが種を沢山つけ子孫繁栄間違いなし・・・と思ってしまう種をつけた写真ですが、実はこの球形の物体「虫こぶ」と云われるもので、花の中に虫の卵が産みつけられて出来た物なのだそうです。割ってみると、確かに卵が産み付けられています。虫の側から見ると、栄養分の多いしっかりした種に産卵することを選ぶのは当然の事です。圧倒的に元気な花に「虫こぶ」が多いように見受けられます。皆が生延びるためのゴットハンドが、作動したのかも知れません。自然との共生とは、このような事ではないかと思えます。



カラスヘビ (シマヘビ)

旭山で出会うヘビの仲間は、シマヘビとアオダイショウがほとんどです。昔ステージのあった水のみ場横から、黒いナイロンテープの様なものが横切りしました。車から降りて駆けつけると、草をぬう様に這い回り、松の木に上って行きました。何とそれはカラスヘビでした。カラスヘビはシマヘビの変種と云うことらしいのですが、昔から気性が荒いと聞いていたので、遠くからカメラを覗き、あまり近づくことはしませんでした。ところが、木の枝に絡みついて一時、昼寝でもしているのか、動かなくなってしまったのです。これはチャンスと撮ったのがこの写真です。何故自分達のスタイルを変えてまで、生延びようとしているのか・・・？黒の方が目立ち、命の危険にさらされると思うのに・・・？「違う事は良い事だ」と個性を発揮しているのでしょうか。

【社会ボランティア賞】受賞

主催 公益財団法人 ソロプチミスト日本財団

先日ソロプチミスト日本財団から、私達会の活動が認められ全国表彰として決定しましたとの報が届きました。仙台以北で一件、その代表に選ばれたとの事です。11月に香川県高松市で式典が行われると、丁寧なお案内を戴きました。これも偏に「ぷくぷく」を足掛け4年に亘って無料でご支援をして下さった下村販売店様、そして活動の様子をそこから読み取って推薦して下さいましたソロプチミスト旭川の関係者の方々に、心よりお礼を申し上げます。私達はこの活動を支えて下さった多くの市民の皆様と共に、喜びを分かち合いたいと思っています。心よりお礼を申し上げます。ありがとうございます。

旭山を活かす街づくり市民の会 会長 二川チエ子

旭山を活かす市民の会 問合せ先

会の全体について(理事長)
中川 希一 (0166-36-1827)

事務局 長
野村 廣巳 (0166-36-3382)

山野草関係の情報
石井 征士 (0166-36-6667)